

# 元気に百歳を迎える

山際 啓一郎さん  
八区・百歳

平成元年度中に百歳以上になるお年寄り全国で約四千人（うち男性は九百人）おり、新潟県内では八十人いるという。

町内では山際啓一郎さんがちょうど百歳で最高齢である。

しかし、山際さんについて語るなら、むしろその元気にについてだろう。

耳が少し遠い（といっても大きな声で話せば通じる）ほかは足腰も丈夫で、どこも悪いところはないという。

月並みではあるが、どうしてこんなに達者でいられるのか、お聞きしてみると「規則正しい生活が長生きの秘訣。それと無理をしないこと」という答えが返ってきた。そして、今の楽しみは「毎晩、ビールをコップで一杯ずつ飲むこと」だという。それも四年前から始めたそうで、それ以前は酒は飲まなかった、というより二、三杯なら飲めるという体質だった。タバコは吸っていたが、セキが出て困り二十年前（！）にやめたそうだ。食事は、ご飯をおかゆにして茶碗二杯を一日三食、しかも、自分で作っているのである。

山際さんのお宅は材木店を営んでいて、白根市鷺の木の国道八号



山際さん。山際材木店の事務所（白根市鷺の木の国道8号線沿線）の炊事場で。お屋はここで、自分の屋食のおかゆを煮る。

沿いに事務所がある。山際さんの父親が創業し、現在は息子の英夫さん（七十歳）が跡を継いでいる。山際さんは毎日そこへ通い、来客にお茶を出したり、植木の世話をしたりしている。

今までで一番楽しかったことは「四十歳のころ活動写真（今の映画）を見に行ったことかな」という。「友だちと自転車に乗って見に行ったんだが、その帰りに関屋で巡査につかまってね。今と違っ

てあのころの巡査はこわかったから。ちょうど白山浦で四人殺しがあったんでその検問だったんだね。一時間ばかりで帰された」。

今までで一番悲しかったことは「戦争で子供四人が兵隊にとられたこと」という。昭和二十七年に妻のクマさんが亡くなられたことも悲しいことだった。「でも、オレもとしをとってね、としをとってからのことは忘れやすいんだ」。

お子さんは現在、七人。黒崎周辺のほか名古屋、横浜、神戸、大阪にいる。お孫さんは全部で十八人。

山際さんは今年の二月に百一歳になる。「まだまだ十年は大丈夫ですね」と孫の奥さんの律子さんは言うが、事務所での元気な姿はその言葉を納得させてくれる。（文・岩野広報担当）

## ほんの一冊

### 上弦の月を喰べる獅子

夢枕獯

（早川書房）

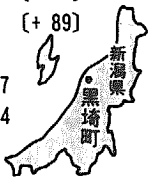
夢枕獯といえば、「魔獣狩り」などの

伝奇バイオレンスものの作家という印象が強いのですが、もっと別な傾向の作品もあって本書はそちらの一番重要な一冊でしょう。…螺旋と進化と幸福についての物語です。

愛する者を失った二人の男（一人は宮沢賢治）が合体し、それ自身が山のような異様な世界を上へ上へと登っていく…構想されてから10年、500ページ以上というボリュームですが、読み易い。昨年の日本SF大賞を受賞しました。

なお、この作品は十日町市にあるミティラー美術館に展示されていた「上弦の月を喰べる獅子」という絵に触発されて書かれたものだそうです。（この本は町図書館に置いてあります）

（人の動き）			
11月末日現在	（前月比）	前年	（同月比）
人口	23,301 (±0)		[+204]
男	11,425 (+12)		[+64]
女	11,876 (-12)		[+140]
世帯	6,206 (+6)		[+89]
11月1日～末日			
出生	10	転入	87
婚姻	18	転出	84
死亡	14		



●米月号の表紙  
二月号では議会十二月定例会、三月号では昭和六十二年度決算を取り上げます。また、観光物産センターを中心とした観光、ふるさと創生一億円などについても順次取り上げていく予定です。皆さんのご意見・ご要望などがございましたら、役場企画開発課広報係までご連絡ください。電話でもハガキでもかまいません。よろしくお願ひします。

町内最高齢者の山際啓一郎さん取材させていただいた。いや、ほんとにお元気なからだ。編集子カメラを持ってのを見て、「道楽やって、お金ももらえるなんていい仕事だね。そういわれるのもしかたないか。しかし、（そうか、カメラは道楽になるのだ）とあらためて認識させていただきました。今まではほんとに「仕事」という感じでカメラを扱ってきたのですが、もうすこし遊びというところも考えて撮ってみたいと思います。（不評だったら、もちろん、考え直します）

町内最高齢者の山際啓一郎さん取材させていただいた。いや、ほんとにお元気なからだ。編集子カメラを持ってのを見て、「道楽やって、お金ももらえるなんていい仕事だね。そういわれるのもしかたないか。しかし、（そうか、カメラは道楽になるのだ）とあらためて認識させていただきました。今まではほんとに「仕事」という感じでカメラを扱ってきたのですが、もうすこし遊びというところも考えて撮ってみたいと思います。（不評だったら、もちろん、考え直します）

あけましておめでとうございます。▼という言葉を十二月をまだ十日も残している時期に書いている。年賀状ならなんの不思議もないわけだが。▼昨年（一九八九年）は昭和天皇の崩御で元号が変わった。しかし、そうと言われないと気がつかないのではないか。ニュースとしてはほとんど一年も前のことである。それ以上に動きが激しかった一年だったというところもあるだろう。▼確かに激動の一年だった。天安門事件、ベルリンの壁の崩壊。国内に目を向ければ、消費税導入とその後の波紋。町内では町長の交替。まだ、あるだろう。▼にもかかわらず、ニュースは消費されるだけで、受け取る側にはそのニュースが与えるべき影響を及ぼしていないのでは。テレビや新聞を前にして（というより壁にして）外の空気に触れないこと。とても不自然で、危険でさえあるものではない。

